

21年度決算の特徴

1. 予算（補正後）との比較

（1）資金収支収入の部

- ・学納金収入は、生徒数の減少で22,669千円の減少となる
- ・補助金収入は、高校部門において大阪府経常費補助金の増により15,388千円の増加となる
- ・前受金収入（次年度入学者学納金）は、部門別には大学21,832千円の増加、高校21,620千円の減少となる

（2）資金収支支出の部

- ・人件費支出は、主として高校の要因により23,418千円の減少となる
- ・教育研究経費支出は、旅費交通費・奨学費・学生生徒活動補助金の減により20,566千円の減少となる
反面、施設設備関係の修繕・修理時期を迎えて修繕費は増加している
- ・管理経費は、広告費・光熱水費・旅費交通費の減により13,010千円の減少となる

（3）次年度繰越支払資金

- ・収入合計はほぼ予算どおり、支出合計は人件費・教育研究経費・管理経費の減少で
次年度繰越支払資金は280,688千円から342,885千円と62,196千円の増加となる

（4）消費収支

- ・帰属収入合計はほぼ予算どおりとなり、消費支出は人件費・教育研究経費・管理経費の減少で
当年度支出超過額は 302,280千円から 223,423千円と78,857千円縮小した
- ・21年度短期大学廃止により、短期大学で組入れしていた4号基本金23,000千円を取崩している

2. 前年度決算との比較

（1）資金収支収入の部

- ・収入合計は前年度決算比375百万円の増加となっているが、増加要因は特定引当預金の125百万円取崩額増加及び特定引当有価証券買換え時の支出両建での収入増加等によるもので、経常収入では主要な収入である学納金収入は生徒数減少により前年度比15百万円の減少、補助金収入が未来経営戦略推進補助金等により前年度比23百万円の増加となる

（2）資金収支支出の部

- ・支出合計は前年度比305百万円増加となっているが、収入と同様に特定引当有価証券買換え時の収入両建での支出増加等によるもので、経常支出では主要な支出である人件費は退職金減少により前年度比82百万円の減少、教育研究経費は奨学費が21百万円増で前年度比11百万円の増加、管理経費は広告費・修繕費等の増により前年度比10百万円の増加となる

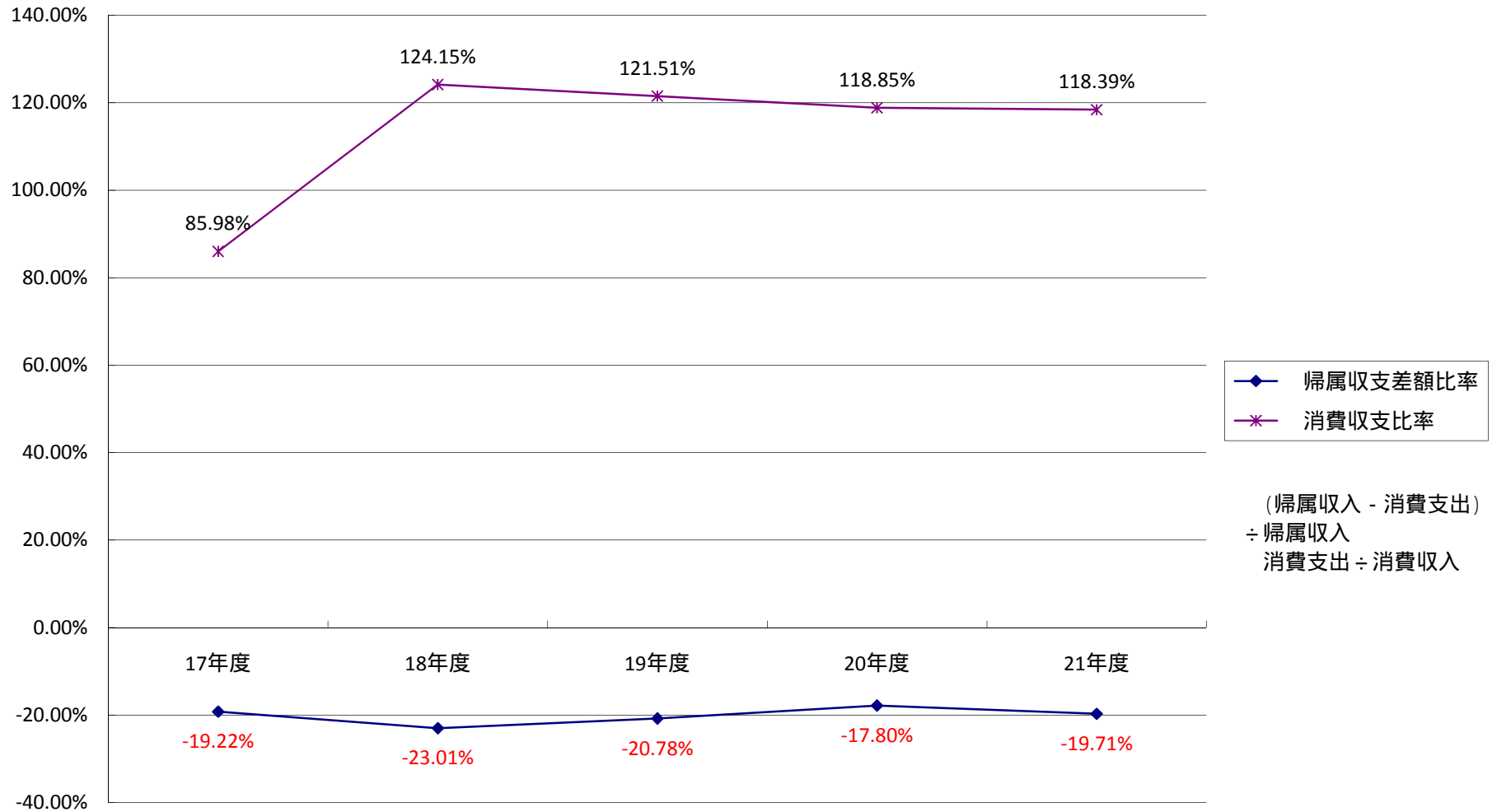
（3）次年度繰越支払資金

- ・次年度繰越支払資金は343百万円と前年度繰越支払資金より54百万円の増加となっているが、特定引当預金を175百万円取崩し支払資金に充当した分を除くと、実質は約168百万円となり前年度比約121百万円の減少となる

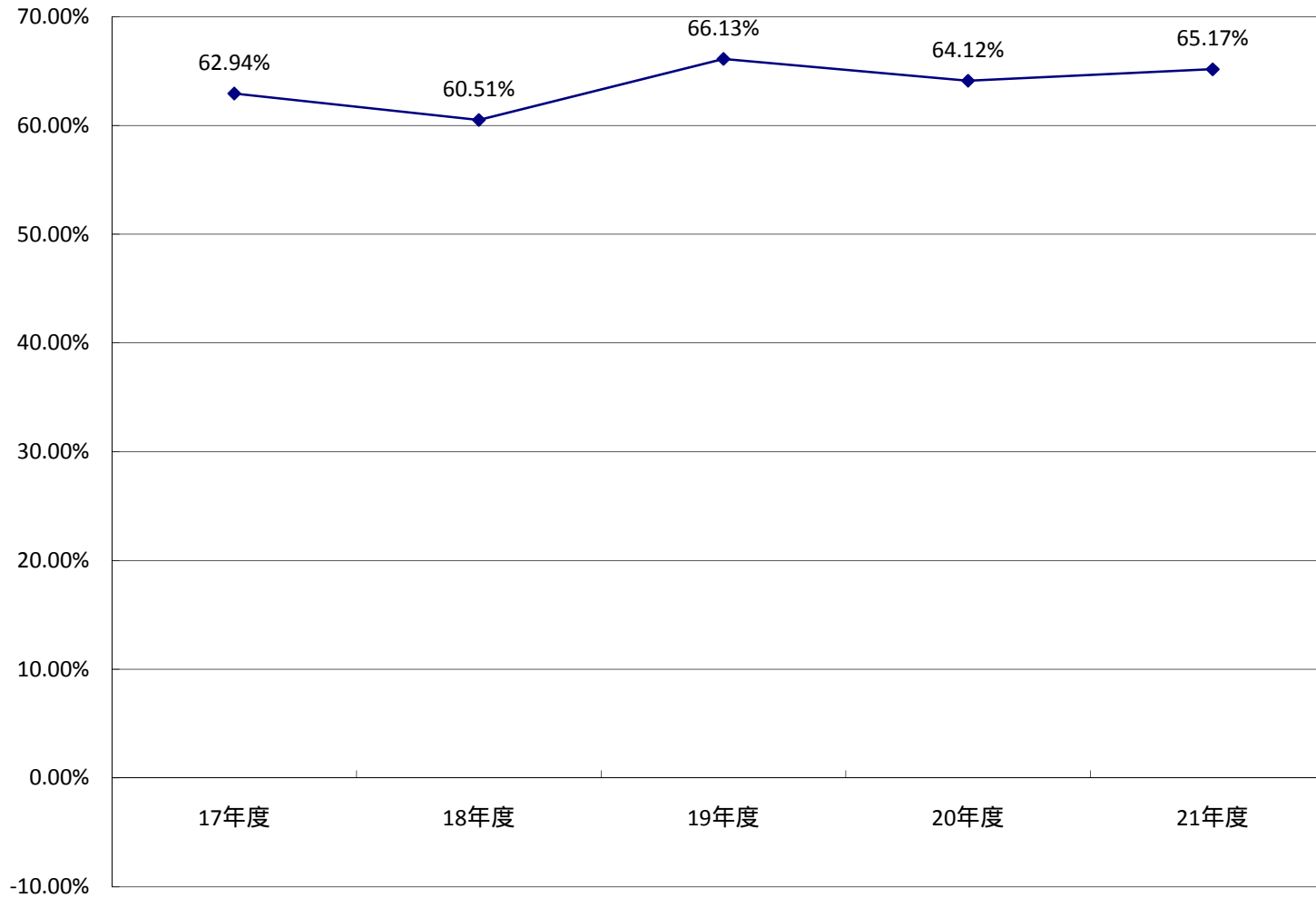
（4）消費収支

- ・帰属収支差額は前年度比16百万円悪化の 237百万円、帰属収支差額比率は前年度比2%悪化の 19.7%となる
- ・特定引当有価証券の買換えに伴い有価証券売却差額（売却益）を6百万円計上する

財務比率 -その-



財務比率 -その-

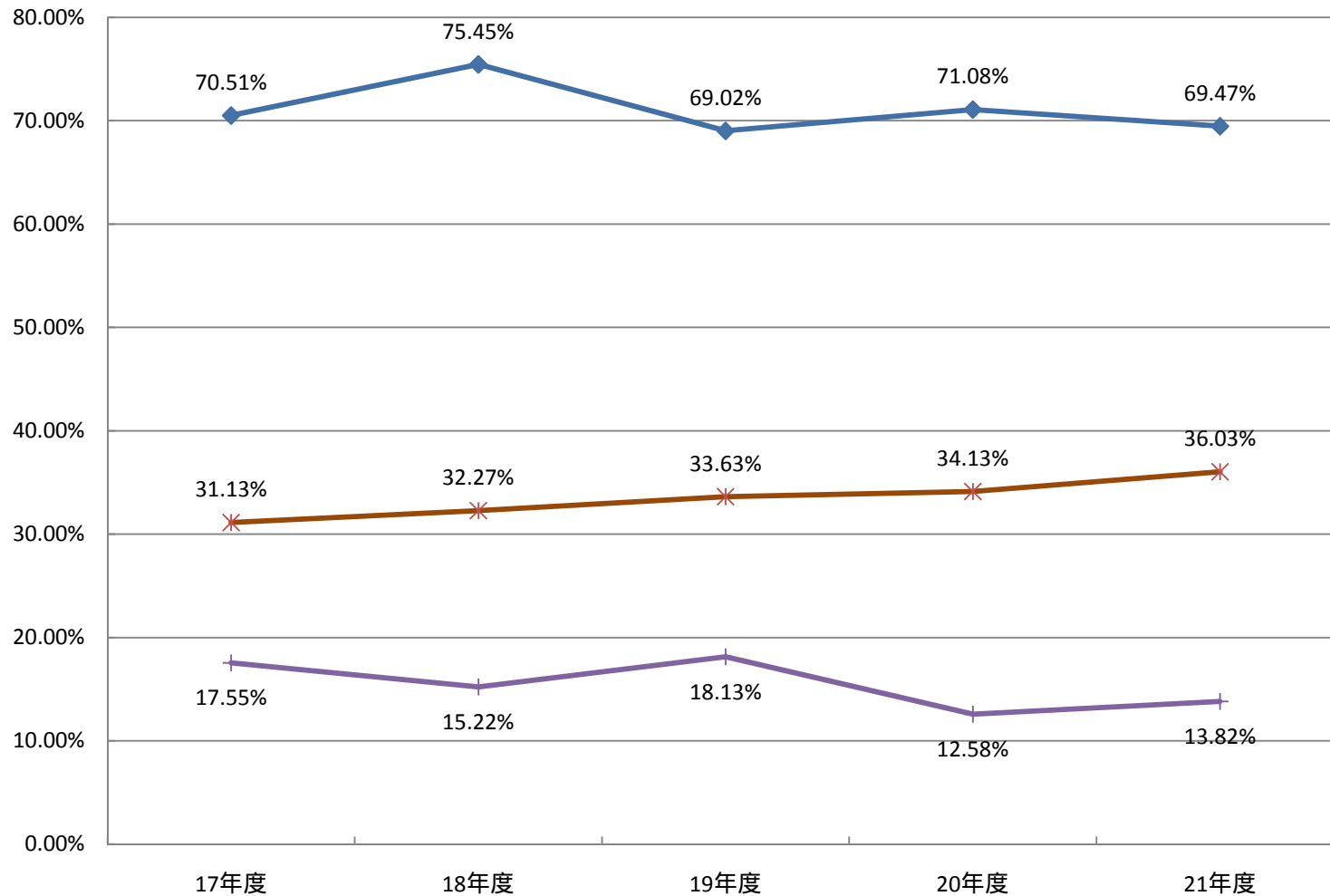


帰属収入に対する比率

◆ 学生生徒等納付金比率

$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$

財務比率 -その-



帰属収入に対する比率

- ◆ 人件費比率
- * 教育研究経費比率
- + 管理経費比率

人件費 ÷ 帰属収入
教育研究経費 ÷ 帰属収入
管理経費 ÷ 帰属収入